

令和5年度

# 第48回 中学校体育授業研究会



埼玉県中学校体育連盟





# 目 次

挨拶	埼玉県中学校体育連盟会長	1
1	戸田市立喜沢中学校 授業内容・指導者一覧	3
	活動の様子（写真）	4
	授業について〔球技（ソフトボール）〕	5
	研究協議のまとめ	6
2	上尾市立大石中学校 授業内容・指導者一覧	8
	活動の様子（写真）	9
	授業について〔球技（サッカー・バスケットボール）〕	10
	研究協議のまとめ	11
3	富士見市立富士見台中学校 授業内容・指導者一覧	13
	活動の様子（写真）	14
	授業について〔球技（ソフトボール・バレーボール）〕	15
	研究協議のまとめ	16
4	小川町立東中学校 授業内容・指導者一覧	18
	活動の様子（写真）	19
	授業について〔球技（バスケットボール）〕	20
	研究協議のまとめ	21
5	小鹿野町立小鹿野中学校 授業内容・指導者一覧	22
	活動の様子（写真）	23
	授業について〔器械運動（マット運動）〕	24
	研究協議のまとめ	25

6	上里町立上里北中学校 授業内容・指導者一覧	27
	活動の様子（写真）	28
	授業について〔陸上競技（長距離走）・武道（柔道）〕	29
	研究協議のまとめ	30
7	深谷市立川本中学校 授業内容・指導者一覧	32
	活動の様子（写真）	33
	授業について〔陸上競技（ハードル走）・器械運動（跳び箱運動）〕	34
	研究協議のまとめ	35
8	行田市立南河原中学校 授業内容・指導者一覧	37
	活動の様子（写真）	38
	授業について〔体づくり運動〕	39
	研究協議のまとめ	40
9	幸手市立幸手中学校 授業内容・指導者一覧	42
	活動の様子（写真）	43
	授業について〔球技（サッカー・バスケットボール）〕	44
	研究協議のまとめ	45
10	さいたま市立常盤中学校 授業内容・指導者一覧	47
	活動の様子（写真）	48
	授業について〔球技（バレーボール）〕	49
	研究協議のまとめ	50



# 挨拶

埼玉県中学校体育連盟

会長 内田 健二

第48回目を迎えた中学校体育授業研究会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催が危ぶまれましたが、5月に感染症法上の取扱いが5類相当へ移行されたことを受け、県内10地区において通常通り開催することができました。県中学校体育連盟の中核をなす事業の一つとして、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会をはじめ、各教育事務所、県立総合教育センター、関係市町村教育委員会の御支援、御協力のもとに開催できましたこと、深く感謝申し上げます。また、県内各支部中学校体育連盟の先生方ならびにそれぞれ研究テーマを掲げた授業を提供してくださいました県内10校の校長先生をはじめとした諸先生方に心より御礼申し上げます。

令和3年度から全面実施となった新学習指導要領では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが求められています。したがって、この中学校体育授業研究会における研究活動の成果を各学校で生かすとともに、小・中・高が連携・協力していかなければならないと考えております。

結びに、資料を作成いただきました先生方並びに本研究会の運営に御尽力いただきました各支部中体連の先生方、そして、適切かつ丁寧な御指導をいただきました県教育局県立学校部保健体育課、各教育事務所、県立総合教育センター、さいたま市教育委員会、関係市町村教育委員会の先生方に衷心より感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。



# 戸田市立喜沢中学校

## 単 元 名

- ・球技 ベースボール型（ソフトボール）

## 授 業 者

穂 積 航 太  
鈴 木 真 琴

## 研究協議会

- ・第1分科会 [体育の授業においての、効果的なICTの活用について]
- ・第2分科会 [運動好きな生徒を育成するための取り組みについて]

## 司 会 者

- ・第1分科会 小太刀 健 斗（新座市立第三中学校）
- ・第2分科会 高 橋 圭 介（草加市立谷塚中学校）

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課主任指導主事

新 井 知 章

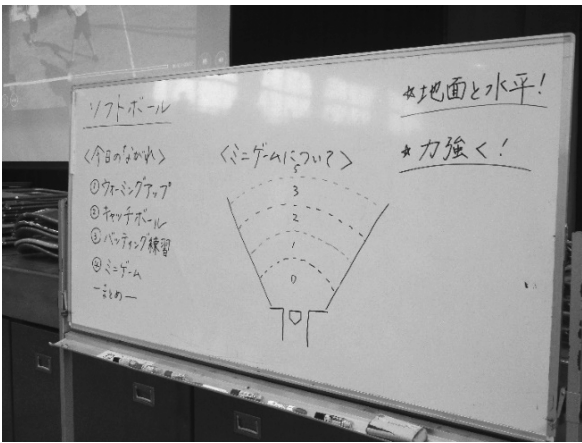
埼玉県教育局南部教育事務所指導主事

熊 田 大 樹

戸田市教育委員会教育政策室指導担当主幹兼指導主事

中 里 直 之

## 《活動の様子》



# 戸田市立喜沢中学校

単 元 名	球技 ベースボール型 (ソフトボール)
指 導 者	穂 積 航 太 ・ 鈴 木 真 琴
単 元 目 標	<p>○ソフトボールの特性や技術の名称などについて理解するとともに、基本的なバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備によって攻防ができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○ソフトボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、仲間の学習を援助しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	<p>○地面と水平になるようにバットを振り、力強い打球を打つことができる。 【知識及び技能】</p>
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 準備</li> <li>2 集合、挨拶、出席確認、健康観察</li> <li>3 準備運動、動的ストレッチ、肩甲骨ストレッチ、ゴロ捕球</li> <li>4 キャッチボール</li> <li>6 本時の内容・ねらいの確認</li> <li>5 バッティング練習</li> <li>6 ゲーム</li> <li>7 学習の振り返り</li> <li>8 整理運動</li> <li>9 集合・反省・振り返り</li> <li>10 次時の予告、挨拶、片付け</li> </ol>

# 第48回南部教育事務所管内（南部地区）中学校体育授業研究会 球技「ソフトボール」

## 第1分科会 「体育授業においての、効果的なICTの活用について」

### 1 授業について

- ・外で実施予定だったが、雨のため体育館で行った。
- ・種目を選ぶ際に、自分の専門競技が野球だったので、“ソフトボール”に挑戦した。
- ・埼玉県の課題＝運動好きな生徒の育成 運動能力に比べ、運動好きな生徒の割合が低い
- ・1年生なので、「種目の特性に触れてほしい」という願いを10時間の授業計画をした。
- ・指導案にもあるように喜沢中の生徒は、「体育の授業は好きですか？→はい90%」、しかし、「ソフトボールは好きですか？→はい50%」になってしまう。

#### 4つのテーマ

- 1 ソフトボールの授業を味わうために、ボールを遠くに飛ばすこと。
- 2 「教え合うことが楽しい」というアンケート結果から、意見交換やアドバイスを多く取り入れること。
- 3 規律の徹底や安全面の確保すること。
- 4 ゲームを中心に、ゲームをすることで競技の魅力を味わわせることを考えた。

### 2 研究協議

- ・ロイロノートが効果的。パソコンのスペックの違いはあるが、ICTが馴染んでいた。
- ・ICTの活用は、小学校からの取組が生かされており、多くの生徒がスムーズにICTを使っていた。
- ・良い動画と課題のある動画を見比べていて、ICTの活用が定着している。
- ・前回の動画が効果的に活用されており、資料の提供をすることで生徒の興味関心を引き出していた。
- ・教具の工夫もあり、「水平に振る」が見てわかった。
- ・天候によってボールを変えて取り組んだのがよかった。

### 3 指導講評

#### < ICTの活用について >

- ・学習前・導入場面：資料や動画の配信（単元に見通しがもてる。いつでもどこでも見返せる。）
- ・展開場面：アドバイスを共有（思考・判断・表現を可視化することにより、確実に見取りにつながる。）
- ・展開場面：動画の撮影《本時》（自分の動きを客観的にとらえ技能の向上につながる。）
- ・終末場面：振り返りカードのデータ化（指導と評価の一体化を図り、授業改善に生かす。）
- ・情報活用能力の育成を教師がやらなければならない時代。

#### < 授業等全般 >

- ・ねらいや振り返りから生徒の必要感を引き出していた。
- ・ICTの有効活用 前時の振り返り、動画撮影→話し合い活動につながっていた。
- ・男女共修の良さを感じた
- ・現在のICTの環境を考えると最大限使用していた。
- ・脱「3K」から新たな「3K」へ  
脱「3K」……経験・勘・気合  
新たな「3K」…根拠・検証・科学

## 第2分科会 「運動好きな児童生徒の育成」

### 1 授業について

- ・外で実施予定だったが、雨のため体育館で行った。
- ・種目を選ぶ際に、自分の専門競技が野球だったので、“ソフトボール”に挑戦した。
- ・埼玉県の課題＝運動好きな生徒の育成 運動能力に比べ、運動好きな生徒の割合が低い
- ・1年生なので、「種目の特性に触れてほしい」という願いを10時間の授業計画をした。
- ・指導案にもあるように喜沢中の生徒は、「体育の授業は好きですか？→はい90%」、しかし、「ソフトボールは好きですか？→はい50%」になってしまう。

#### 4つのテーマ

- 1 ソフトボールの授業を味わうために、ボールを遠くに飛ばすこと。
- 2 「教え合うことが楽しい」というアンケート結果から、意見交換やアドバイスを多く取り入れること。
- 3 規律の徹底や安全面の確保すること。
- 4 ゲームを中心に、ゲームをすることで競技の魅力を味わわせることを考えた。

### 2 研究協議

- ・ロイロノートが効果的。パソコンのスペックの違いはあるが、ICTが馴染んでいた。
- ・ICTの活用は、小学校からの取組が活かされており、多くの生徒がスムーズにICTを使っていた。
- ・良い動画と課題のある動画を見比べていて、ICTの活用が定着している。
- ・前回の動画が効果的に活用されており、資料の提供をすることで生徒の興味関心を引き出していた。
- ・教具の工夫もあり、「水平に振る」が見てわかった。
- ・天候によってボールを変えて取り組んだのがよかった。

### 3 指導講評

#### ○授業について

- ・授業の準備片付けがスムーズだった。普段の授業からの教員の声掛けや授業準備が良かった。
- ・ICTを自主的に活用していることで、生徒のリテラシーが高く、タブレットを文房具にしている。

#### ○授業計画・単元計画について

- ・10時間の授業計画の中で授業前に生徒へアンケートを行い、生徒の思いを汲み取っているところが良い。
- ・各校の実態に応じて、運動好きな児童生徒の育成という観点においては、「ウォーミングアップ」が次の主運動につながる。
- ・ICTを活用して、「ねらい・動きの確認」ができており、生徒たちが視覚的に理解することができていた。
- ・練習→ゲームの流れでは、「水平」と「遠くに」の関連性については、授業の中で「ミートするなら水平だよ」という授業者の声掛けもあった。
- ・授業の中で生徒たちと授業者でゴール像の共有が大切。リーフレットを読み込むこと。

#### ○共生の視点

- ・男女共修実施の考え方……発達段階が上がるにつれて差が出てくるが、豊かなスポーツライフと関連付けて進めていくと個性として捉えてできるところから始めていく。教材教具の工夫、ルール工夫次第でねらいに迫り、楽しめることは可能である。



# 上尾市立大石中学校

## 単 元 名

- ・球技（サッカー）
- （バスケットボール）

## 授 業 者

青 木 清 孝  
金 子 亮 太  
高 橋 修 平  
齋 藤 絵 梨

## 研究主題

「主体的に学び、互いを高め合える学習指導の工夫」  
～主体的で深い学びを目指して～

## 司 会 者

- ・松 本 貴 好（桶川市立東中学校）
- ・池 田 幸 乃（上尾市立大谷中学校）

## 記 録 者

- ・伊 東 莉 央（鴻巣市立吹上中学校）
- ・大 熊 淳（伊奈町立小針中学校）

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	新 井 知 章
埼玉県教育局南部教育事務所教育支援担当指導主事	熊 田 大 樹
上尾市教育委員会学校教育課指導主事	玉 造 勇 輝

# 《活動の様子》



## 上尾市立大石中学校

単 元 名	球技（サッカー）
指 導 者	青 木 清 孝 ・ 金 子 亮 太
単 元 目 標	<p>○サッカーの特性や技能の名称などについて理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力】</p> <p>○サッカーの学習に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、仲間の学習を援助しようとすることや、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	○パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くことができるようにする。 【知識及び技能】
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合、整列、出席確認、健康観察、挨拶</li> <li>3 準備運動</li> <li>4 感覚づくりの運動</li> <li>5 本時のねらいと内容の確認</li> <li>6 動き方の確認</li> <li>7 簡易ゲーム</li> <li>8 整理運動、集合、整列、健康観察</li> <li>9 学習の振り返りとまとめ</li> <li>10 次時の予告</li> <li>11 挨拶、片付け</li> </ol>

単 元 名	球技（バスケットボール）
指 導 者	高 橋 修 平 ・ 齋 藤 絵 梨
単 元 目 標	<p>○バスケットボールの特性や技能の名称などについて理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力】</p> <p>○バスケットボールの学習に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、仲間の学習を援助しようとすることや、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	○パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くことができるようにする。 【知識及び技能】
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合、整列、出席確認、健康観察、挨拶</li> <li>3 準備運動</li> <li>4 感覚づくりの運動</li> <li>5 本時のねらいと内容の確認</li> <li>6 動き方の確認</li> <li>7 条件付きアウトナンバーゲーム 3</li> <li>8 集合、整列、整理運動、健康観察</li> <li>9 学習の振り返りとまとめ</li> <li>10 次時の予告</li> <li>11 挨拶、片付け</li> </ol>

# 第48回南部教育事務所管内（南部地区）中学校体育授業研究会

## 球技（サッカー）

### 第1分科会 「体育授業における主体的に学ぶための工夫」

#### 1 授業について

- ・ボールを持っていない人の動きに重点を当てて指導し、チームでも話し合いを行ってきた。
- ・ドリブル、パスを重点的に練習し、その技能をつかってスペースに走り込むのが本時のねらいであった。
- ・w.up やドリブルの場では、自分で高めたいところを選ぶことで主体的に取り組むことができた。
- ・男子は、スペースに走り込んだり、ボールを呼び込んだりすることがよくできていた。
- ・女子はフリーをつくるための動きが難しいので、声かけをしたり、一緒に動いたりした。

#### 2 研究協議

- ・w.up で運動量が確保されていて良い。
- ・ねらいの確認では、なぜこのねらいなのか詳しく説明すると生徒の主体性につながる。
- ・生徒が困っているところから課題の設定ができると、生徒が自分事として捉えることができる。
- ・作戦タイムで ICT の活用が少なかったように感じる。
- ・最後のゲームは4対4ではなく、4対3にして、段階的な指導を行うのはどうか。
- ・生徒が主体的に活動しており、活動内容の必要性を生徒が理解していた。
- ・チームの課題を解決する時間、練習時間をとっても良い。めあてを達成する上でも大切ではないか。
- ・苦手な生徒への支援の一つとして、男女で兄妹チームをつくるのはどうか。
- ・見ている生徒の声かけや ICT の活用を工夫すると良い。
- ・話し合いの雰囲気が良い。モデリングがあるとさらに良くなると思う。
- ・ICT で撮影する際は、撮る作業と声かけのバランスをとる指導を行うと良い。
- ・4対4ではなく、人数が少ない方がスペースが空き、空間に走り込むことができるようになるのではないか。
- ・w.up の工夫があつて良い。（場が選択できるところが良い）
- ・女子のゲーム内の動きの課題がある。
- ・ルールの自己決定の場があつても良い。
- ・作戦会議の場面が多いが、活発に話し合いができているところと、そうでないところがあった。
- ・4対4で長方形のコートだと、「空間に走り込む」ことが難しいのではないか。

#### 3 指導講評

- ・準備体操やアップの選曲が良い。なぜやるのかを抑えた上で、生徒のテンションが上がる曲を選び、意欲を高めさせる。
- ・感覚づくりでは途中で種目を変える生徒がおり、意欲的に取り組んでいる様子が見られた。
- ・外の ICT 環境は厳しい場合があるが、使い方を工夫する。（動画を撮る、アンケート、振り返り等、多角的に活用する）
- ・前回の復習でモデリングを示すと、生徒が動きのイメージが湧く。
- ・動きの良い生徒への教師の声かけが良い。
- ・見ている生徒への指導を丁寧に行う。（声かけの指導まで行う）
- ・試合後のチームミーティングは必ずやる。なぜ勝ったのか、なぜ負けたのか生徒に考えさせる。
- ・ゲーム終わりの挨拶と握手は良かった。生徒の関わりを積極的に増やす。

## 第2分科会 「球技における ICT の効果的な活用方法」

### 1 授業について

- ・準備運動→種目ごとに意味、使う部位を考えて行うようにした。
- ・ICTの使い方→ゲームの撮影を中心に活用。ハードルでは追いかけて再生動画機能を使った。生徒がやるので、うまくとれないことも。
- ・サポート（撮影者、アドバイス）の生徒に声かけをし、「リトルティーチャー」を育成を心がけた。

### 2 研究協議

- ・動画で客観的に見ることができた。
- ・追いかけて再生動画機能の設定で10秒→時間が短く忙しかった。
- ・撮影位置は今回の狙い「スペースに走り込む」であれば向きをできれば上から
- ・ゲームの全てを撮影しても授業内で活用しきれない。時間やゲームを限定しても良かったか。
- ・大型テレビで良かったプレーを共有できるとわかりやすい。
- ・運動量がよく確保されていたが、ICTを使うなら、運動量を少し削って、動画を生かす時間を確保するとよいかもしいない。

### 3 指導講評

- ・体育でのICT活用は、手軽に・操作に時間がかからず・短時間でできるようにする。そのため単元計画の段階でしっかりと計画することが大切。
- ・本時のねらいを達成している生徒が多くみられた。それは、場の設定・ICTの活用に加えて、指導と評価の一体化された教師の声かけによるものであった。
- ・タブレットの追いかけて再生動画機能は自分の動きの見える化に適している。球技のゲーム全体の撮影での活用には不向きであると思われる。
- ・ICTを活用した話し合いでは、撮影位置やその対象を指導するとより効果的になる。さらにねらいに迫る生徒を増やすには、大型TVを利用して全体に問いかけるなどの方法がある。
- ・2年生のバスケットボールの授業において、攻撃重視の計画は、しっかりと学習指導要領に基づいている。
- ・感覚づくり運動が種目につながる動きであった。大石中学校では、領域・種目ごとに生徒が考えて変えている。ただ、筋温、心拍数、関節可動域の上昇の点では不足していたかもしれない。
- ・教師の声掛け、今日の振り返り、まとめの内容が今日のねらいにつながる内容で徹底されていた。生徒が「必要感」を持ってるとさらに良い。前時の振り返りを活かすなどの方法がある。
- ・T2の声掛けも含めて徹底されるとさらに良かった。

# 富士見市立富士見台中学校

## 単 元 名

- ・球 技 (ソフトボール)
- ・球 技 (バレーボール)

## 授 業 者

内 海 恵 子  
仙 波 佑 介

## 研究協議会

球技スポーツにおける男女共習  
～個を認め合うチームの力の育成～

- ・第1分科会 ソフトボール
- ・第2分科会 バレーボール

## 司 会 者

- ・第1分科会 杉 野 琢 磨 (川越市立福原中学校)
- ・第2分科会 猿 橋 陽 介 (坂戸市立若宮中学校)

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	新 井 知 章
埼玉県教育局西部教育事務所指導主事	兒 玉 直 也
富士見市教育委員会教育部学校教育課指導主事	矢 場 友 道



## 《活動の様子》





## 富士見市立富士見台中学校

単元名	球技 「ソフトボール」	
指導者	内海 恵子	
単元目標	<p>○ソフトボールの特性や技術の名称・行い方を理解するとともに、基本的なバット操作と走塁での攻撃や、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開することができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○バット操作やボール操作に関する自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて練習の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを仲間に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○健康・安全に留意し、学習に積極的に取り組むとともに、練習やゲームを通してフェアなプレイを守ろうとすること、また、励まし合い仲間の学習を援助しようとするようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>	
本時の目標	○基本的なバット操作でボールを打つこと、またその後の走塁と打球の状況から次の塁を狙ったり止まったりできるようにする。 【知識及び技能】	
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備・出欠確認</li> <li>2 あいさつ／前時の振り返り</li> <li>3 準備運動 体操、補強：グーパー連続15／クラブ下しスクワット ランニング：ベースラン2周、ダッシュ2本</li> <li>4 基本のキャッチボール ボール転がし→下投げバウンド→上投げ</li> <li>5 本時のねらいと内容の確認</li> <li>6 設定練習（4ヶ所）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>7 ゲームの準備</li> <li>8 ゲーム</li> <li>9 片付け</li> <li>10 整理運動 ～整列</li> <li>11 学習の振り返りとまとめ</li> <li>12 次時の予告</li> <li>13 あいさつ</li> </ol>

単元名	球技 「バレーボール」	
指導者	仙波 佑介	
単元目標	<p>○バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称、行い方などについて理解するとともに、ボール操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所の攻防ができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けた運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが出来るようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○バレーボールの学習に積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに参加し、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、フェアプレイを守ったりして、健康・安全に留意し運動できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>	
本時の目標	○攻防を展開するため、ボールの落下地点を認知し、状況に応じたボール操作ができる。 【知識及び技能】	
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合・挨拶・出席確認・健康観察</li> <li>3 準備運動</li> <li>4 感覚づくり運動 ※2人組</li> <li>5 本時のねらいを確認</li> <li>6 三角パス</li> <li>7 ゲームⅠ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8 ゲームⅡ</li> <li>9 集合・整理運動・健康観察</li> <li>10 学習の振り返りとまとめ</li> <li>11 次時の予告</li> <li>12 挨拶・片付け</li> </ol>

# 第48回西部教育事務所管内（入間部地区）中学校体育授業研究会

## 第1分科会 球技「ソフトボール」

### 1 授業について

- ・慣れの運動（キャッチボール）では3人、3人でやっているところがあったので2人組を組ませたほうが要領がよかった。
- ・課題「テイクバック」は難しすぎた気がした。
- ・課題解決を考えるとネットに向かって数多く打つ工夫があってもよかったと思う。

### 2 研究協議

- ・能力別にボールの種類を変える工夫や能力に応じたチーム編成をすることでも良いのではないか。
- ・女子のレベルが高かった。また、男女での声かけが多く、人間力の育成ができていた。
- ・正規のルールに近づけるためには、1年次からの積み重ねが重要である。男女共習も含め、計画的に学習を進めることが大事だと感じた。

### 3 指導講評

- ・すべてを男女共習でやるのが難しければ、兄弟チームを作ることも1つの方法である。
- ・良い授業とは、教師・教材・学び手の関係性が良いことである。
- ・見本ができる先生はそこが強みでもあるためどんどん見せていくことが大切である。
- ・苦手な子へのフォローは教材づくりでカバーできることもある。
- ・小学校からのつながりで中学校の授業スタイルが変わってくる。（どんなルールでやっているのかを知ること）
- ・チーム力を数値化すると生徒の伸びがわかり、モチベーションを上げる効果にも繋がる。

## 第2分科会 球技「バレーボール」

### 1 授業について

- ・男女共習でも男女関係なくとても良い雰囲気で活動できていた。
- ・試合になった時に運動量が減ってしまった。
- ・時間が足りず、まとめが不十分になってしまった。

### 2 研究協議

- ・技能の差はあるが、男子がフォローして女子（苦手な生徒）の技能が高まっていた。
- ・生涯スポーツの観点からも今回のような活動はいいと思った。
- ・フォーメーションやルールを自分たちで考え工夫している場面が多くあり、チーム力向上に繋がっていた。
- ・今回はワンバウンド可になっていたが、バレーボールの特性を考えると、ワンバウンドではないルールの工夫が必要だと感じた。

### 3 指導講評

- ・活動中に集合させる場合には、集める目的をはっきりとさせ、1回5分程度にすると活動が確保できる。
- ・準備運動は毎時間行うため慣れてきて雑になってしまうことがあるので注意する。時には途中で止めて慣れの運動の確認をすることも大切である。
- ・ルールを決める時には、小学校の内容を理解し発展させていけることが理想的である。
- ・タイムマネジメントを間違ってしまったが、振り返りの時間は確実にとるべきである。
- ・他者とのよりよい関係をつくる上でも男女共修を進めていけると良い。
- ・単元を通して<知識及び技能><思考力、判断力、表現力等><学びに向かう力、人間性>をバランスよく扱う。そのためには、単元の特性と学習内容、実態把握をしっかり行い単元計画をしっかり組み立てることが大切である。
- ・小学校で何をやったのか、高校で何をするのかを知った上で中学校の授業を組み立てる。

# 小川町立東中学校

単 元 名

・球技（バスケットボール）

授 業 者

児 玉 真 哉

小 谷 和 滋

研究協議会

司 会 者

橋 口 圭 輔 （川島町立西中学校）

記 録 者

坂 入 彩 加 （嵐山町立玉ノ岡中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

新 井 知 章

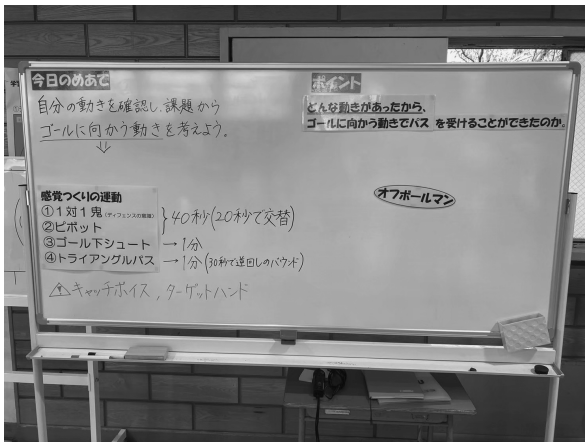
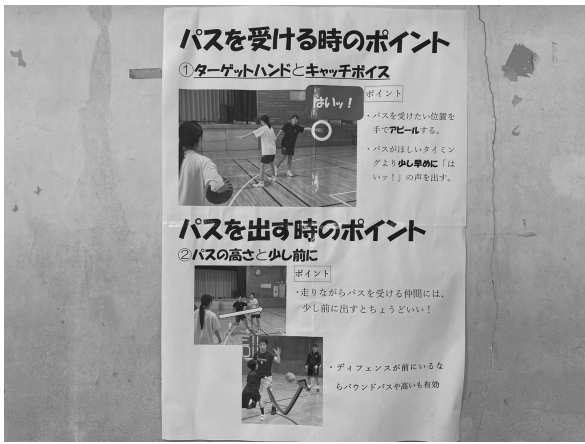
埼玉県教育局西部教育事務所指導主事

児 玉 直 也

小川町教育委員会学校教育課指導主事

大 谷 恭 平

# 《活動の様子》



## 小川町立東中学校

単 元 名	球技（バスケットボール）				
指 導 者	児 玉 真 哉 ・ 小 谷 和 滋				
単 元 目 標	<p>○ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方を理解するとともに、ボール操作や空間に走り込む動きによる攻防が理解できるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○ 攻防における課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを、他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○ バスケットボールに積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに参加しようとしたり、健康・安全に気を配り、バスケットボールを通して仲間と楽しむことができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>				
本時の目標	<p>○ ICT 機器を活用し、自己の課題を発見し、ゴールに迫る動きや空間の使い方について考えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p>				
授 業 内 容	<p>導 入（10分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合、出欠確認、健康観察、挨拶</li> <li>3 準備運動</li> <li>4 感覚づくりの運動             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(1) 1対1鬼</td> <td style="width: 50%;">(2) ピボット1対1</td> </tr> <tr> <td>(3) ゴール下シュート</td> <td>(4) トライアングルパス</td> </tr> </table> </li> </ol> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>展 開（35分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>6 ハーフコート3対2</li> <li>7 話し合い活動</li> <li>8 3対2</li> </ol> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>整 理（5分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 整理運動</li> <li>10 学習の振り返り、学習カードの記入</li> <li>11 まとめ、次時の連絡</li> <li>12 挨拶、片付け</li> </ol>	(1) 1対1鬼	(2) ピボット1対1	(3) ゴール下シュート	(4) トライアングルパス
(1) 1対1鬼	(2) ピボット1対1				
(3) ゴール下シュート	(4) トライアングルパス				

## 第47回西部教育事務所管内（比企地区）中学校体育授業研究会 「球技」（バスケットボール）

### 1 授業について

- ・ウォーミングアップの流れは生徒が理解し、よく動いていた。
- ・動き方の一例を示す手段として、動画を見せたのがよかった。
- ・話し合い活動の時に、映像をもとにホワイトボードとマグネットを使用することができていた。
- ・ホワイトボードにおこした説明を動きとして活かすことができなかった。
- ・タイムマネジメントについて工夫が必要だと感じた。

### 2 研究協議

- ・感覚づくり……ステップと腰の上下運動について説明していたのか？  
→ディフェンス力をつけたくて説明していた。
- ・ピボット……ボールの高さを意識させた。
- ・1年次のサッカーでスペースを利用する授業をしている。使えるスペース、使えないスペースの説明はあったか？  
→並びを意識させた。三角形を崩す動きを今後やらせたい。

### 3 指導講評

- ・3時間目、6時間目でICTを活用、ゴールが狙える位置からのシュートができているか。動きの例示、動きの確認。
- ・課題の確認、他の班との情報共有。
- ・見本映像を提供、いつでもタブレットで確認できる環境を作ることが大切。
- ・活動量の確保とICTとのバランス。
- ・指導と評価の一体化（視覚化）、狙いを絞って使用する。
- ・動きの確認、振り返りなどをタブレットで入力、使いやすい単元で使用し技術向上に繋げる。
- ・デジタルとアナログの両立ができていた。付箋の使用によって思考・判断の評価に繋がる。



# 小鹿野町立小鹿野中学校

単 元 名

・器械運動（マット運動） 第2学年

授 業 者

笠 原 勇 人

研究協議会

研究主題

主体的に学び活動する生徒の育成

研究の柱

主体的に学ぶための教材・教具の工夫について

司 会 者

・室 岡 祐 貴（長瀬町立長瀬中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

新 井 智 章

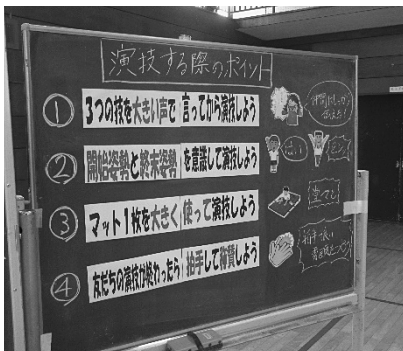
北部教育事務所秩父支所指導主事

横 山 祐 樹

小鹿野町教育委員会指導主事兼副主幹

小 野 仁 士

## 《活動の様子》



## 小鹿野町立小鹿野中学校

単 元 名	器械運動（マット運動）
指 導 者	笠 原 勇 人
単 元 目 標	<p>(1) マット運動については、技ができる楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよくできるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>(3) マット運動に積極的に取り組み、良い演技を認めることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲を持ち、健康や安全に気を配ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	<p>○「はじめ～なか～おわり」の滑らかな組み合わせを考えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】</p>
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合・挨拶・健康観察</li> <li>3 準備運動 屈伸・アキレス腱・手首足首・腕回し・首回し</li> <li>4 2人組ストレッチ 長座姿勢 開脚姿勢 背中合わせ 向かい合わせ肩入れ（10秒×2セット）</li> <li>5 感覚づくり運動 <ol style="list-style-type: none"> <li>①前転</li> <li>②後転</li> <li>③ゆりかご小～ゆりかご大</li> <li>④開脚前転・開脚後転（傾斜あり）</li> <li>⑤足たたき</li> <li>⑥3点倒立～前転（できない生徒は補助）</li> </ol> </li> <li>6 本時のねらいの確認</li> <li>7 各場所へ移動し、滑らかな組み合わせ方をグループごとに考える</li> <li>8 ワークシートに自分の考えを記入 滑らかにする手立て ・技の組み合わせ方 ・開始位置を工夫 ・技と技のつながりのロスをなくす</li> <li>9 考えた組み合わせでグループごとに発表</li> <li>10 整理運動</li> <li>11 集合・反省・振り返り</li> <li>12 次回の授業の確認</li> <li>13 挨拶・片付け</li> </ol>

## 第48回北部教育事務所秩父支所管内 中学校体育授業研究会

### 「器械運動（マット運動）」

#### 1 授業について

- ・前日まで学年閉鎖だったため、なかなか活動が難しかったが、子どもたちがよく動いていた。
- ・運動量よりも考える力をつけさせたかった。

#### 2 研究協議

- 『主体的に学ぶための教材・教具について』の研究協議題を6グループに分かれ、本授業の『工夫されていた点』『改善点やもう少し工夫できる点』『各校で行っている効果的なICTの活用方法についての工夫』を色分けし付箋にまとめグループ協議を行った。その後、話し合いの内容をグループごとにまとめ、代表者が発表した。

##### 【本授業で工夫されていた点】

- ・流れがテンポ良くてよかった。人数が少なかつたけれどとてもよくできていた。
- ・見本を見せることでねらいが的確にできていた生徒が多かった。子どもたちの理解度が高い。
- ・規律がしっかりしている。ハンドサインで示していたことが良い。
- ・サーキットトレーニングもたくさんできていたので良い。
- ・男女共修学習ができていた。
- ・先生の声かけが多くて良かった。更にポイントを絞っていて分かりやすかった。常にねらいを言っていた。
- ・掲示物の種類が多い。
- ・元気が良く、雰囲気も明るくて良かった。
- ・学習カードの工夫が良く、学習の見通しが持てた。
- ・「なめらかなとは？」という質問に対して子どもに言わせていたのが良い。
- ・ウォーミングアップから技への変化、方向変換などシンクロしていてよかった。

##### 【改善点やもう少し工夫できる点】

- ・補助の仕方をしっかり浸透させる。
- ・点数の理由を明確にして、評価してあげられると良い。
- ・手の着き方が心配であるため指導が必要である。
- ・技の完成度も高めてどうアドバイスしたら良いかを子どもたちに考えさせたい。
- ・補助の人の見守る位置の改善が必要である。
- ・マットの耳はしまう。
- ・運動量の確保ができると良い。
- ・良い見本と悪い見本を見せ、違いを分からせるとよかった。
- ・はじめ—なか—おわりを重視させる。
- ・ロスという言葉ではない方がよかった。

##### 【各校で行っている実践例や活用の工夫例】

- ・時間の管理に使っている。
- ・音楽をかけてリラックスできる雰囲気を作っている。
- ・動画を撮影し、アドバイスを送り合う。
- ・アンケート機能として活用している。
- ・技のポイントを掲示し、知識・技能の定着を図っている。
- ・動画が見られるようにしておき、見本と比べながら改善を図れるようにしている。

#### 3 指導講評

- ・器械運動（マット運動）は好き嫌いがはっきりする種目であるが、とても生き生きして活動していた。
- ・先生の働きかけ、気持ちを上向きにする働きかけがたくさんあったことがとても良かった。
- ・ポイント、ポイントで声かけがあったのが良かった。
- ・先生が演技を示したが途中ミスもあり、完璧ではない部分があったことで子供も安心できたのがよかった。
- ・『滑らか』という言葉の定義は何かをはっきりとさせておく。
- ・ペアでの活動、ハイタッチができていたことが良かった。先生と生徒のつながりが見える良い授業だった。
- ・マット運動にかける価値と期待感を教師の指導観につなげる。
- ・学習カードは、学習の達成度がわかるカード、学びの変容がみとれる工夫があるカードが見通しをもって取り組める。見応えのある授業になる。
- ・感覚づくりの運動は、主運動につながるものを厳選すること。
- ・互いに称賛させていたことがとても良い。道徳教育の視点も良かった。
- ・自己の振り返り、次時への意欲、まとめの時間が取れていて良かった。
- ・ねらいに正対したふりかえりができるように展開すると良い。
- ・途中で「3つつなげていく」ことを修正したが、子どもたちは気付かない子もいた。
- ・どうしたらできるか、色々声をかけていたことが良い。技能の習得が甘い班があった。目線が正しくないまま練習してしまっている生徒や足が開いたまま倒立をしている生徒も多かったので感覚づくり運動で身に付くようにしたい。



- ・「小さなできた」を声かけする。そういう生徒がいるとよい。
- ・ICTの活用方法としては、技のポイント、知識・技能を定着させるために使用したり、アンケート機能を活用したりして、改善に繋げていくとよい。手本と見比べながら、改善を図れるようにさせてあげられるとよい。編集ソフトを使うとよい。
- ・運動は苦手だけど笠原先生の授業が好きという生徒の育成を行う。
- ・主体的に学ぶとは、生徒たちがバツと動けることである。環境の設定が大切であり、掲示物、ポイント、ICT、道具などが豊富で環境が整っていた。準備がされていたことが良かった。
- ・生徒の実態を把握している。何となくできてしまう→そこが弱い。そのためのポイント、掲示物があったことが良かった。ただし、活用の仕方は指導が必要である。1人ひとりに的確に活用の仕方を指示していたことが良かった。子どもたち同士で「あれを活用しよう」と言えるようになると更によい。
- ・3つの資質能力をバランス良く単元を通して教え込めるようにすること。表現の場なので、運動量と話し合いのバランスは良かった。
- ・班で話し合うときも、動きながらやってもよい、最終的には話し合いをしてねと伝えるだけでも、もっと生徒の活動量が変わってくると思う。その時間に課題解決も含ませて取り組ませると良い。止まって話すだけが話し合いではないと教えてあげることも大切である。
- ・男女共習の面白さがある。どこでどう組み込んでいくか、工夫をしてぜひ取り組んでほしい。
- ・単元計画を作成する時に、リーフレットや動画を見て作成して欲しい。
- ・単元が始まる前にはゴール像をイメージしてオリエンテーションを行うようにする。

# 上里町立上里北中学校

## 単 元 名

- ・陸上競技（長距離走）第1学年
- ・武 道（柔 道）第1学年

## 授 業 者

柿 沼 聖 弥  
(内 藤 栄 一)  
久保田 佳 純

## 研究協議会

- ・第1分科会 [陸上競技・長距離走]
- ・第2分科会 [武道・柔道]

ペア学習を通して、運動への多様な関わり方を知り、  
体育好きを育てる

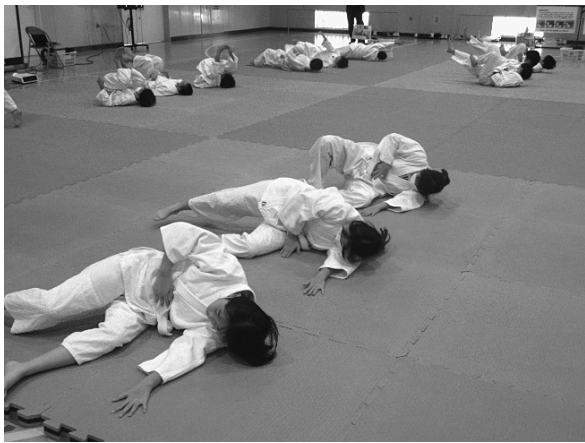
## 司 会 者

- ・第1分科会 権 田 叶 恵 （美里町立美里中学校）
- ・第2分科会 小 寺 淳 也 （本庄市立本庄南中学校）

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	新 井 知 章
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事	小 林 良
埼玉県県立総合教育センター教職員研修担当指導主事	野 中 拓 二
上里町教育委員会教育指導課指導主事	萩 原 信之介

# 《活動の様子》





# 上里町立上里北中学校

単元名	陸上競技（長距離走）	
指導者	柿沼聖弥	
単元目標	<p>(1) 長距離走について記録の向上や競争の他の差や喜びを味わい、長距離走の特性や成り立ち、技術の行い方などを理解するとともに、ペースを守って走ることができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力】</p> <p>(3) 長距離走に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>	
本時の目標	○本時の目標 ペースを一定にして走ることができるようにする。 【知識及び技能】	
授業内容	1 用具の準備 2 集合・挨拶・出席確認・健康観察・心拍数の測定 3 準備運動（集団走・体操・補強運動） 4 感覚づくりの運動 5 前時の振り返り、本時のねらいと内容の確認 6 ペース走	7 ペース配分のグラフ作成と比較 8 整理運動 9 集合・健康観察 10 学習の振り返り・まとめ 11 次時の予告 12 挨拶・片付け

単元名	武道（柔道）	
指導者	久保田佳純	
単元目標	<p>(1) 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方を理解するとともに、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、抑えたりするなどの簡易な攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力】</p> <p>(3) 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることや、禁じを用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>	
本時の目標	○提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力】	
授業内容	用具の準備 1 集合・挨拶・健康観察 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 本時のねらいと内容の確認 5 抑え込みの条件・固め技のポイント確認 6 グループ活動（3人～4人）	7 抑え込みゲーム（2人組） 8 健康観察・整理運動 9 まとめ 10 振り返り 11 次時の予告 12 挨拶・片付け

# 第48回北部教育事務所管内（児玉郡・本庄地区）中学校体育授業研究会

## 第1分科会 「陸上競技（長距離走）」

### 1 授業について

- ・1年生で元気のあるクラスだが、体育の長距離走だと苦手な子が多い。
- ・苦手な生徒も楽しめる、好きになるような授業を展開したい。
- ・当日は気温が高かったため、体調不良を心配した。いつも以上に確認を多く行った。女子が一人過呼吸になりかけてしまった。
- ・「一定のペースを守って走る」ということは理解できていたが、その結果どうなるのかがわかっていなかった。  
⇒一定のペースを守って走ると楽に感じ、後半のペースが落ちにくいということ。

### 2 研究協議

『ペア学習を通して、運動への多様な関わり方を知り、体育好きを育てる授業実践』

『ICT機器（タブレット端末等）の効果的な活用方法』

#### (1) 授業を参観して

- A班：教師の声掛けがよかった。掲示物などの視覚的なアプローチも効果的だった。コース分けも多様でよかった。タイマーの位置の工夫が必要。走る距離をもう少し長くしてもいいのではないかな。生徒同士の声かけが具体的でよかった。ICTはWi-Fi環境が整っていない、個人持ちのタブレットだと外で使うのが厳しいなどが現状。けど、テントの中で使うなどの工夫をした学校もあった。
- B班：授業の雰囲気が良かった。場づくりの工夫がされていた（コース、掲示物）。グラフ作成ではかけない子もいるのでタブレットの使用は良いと思う。タイマーの位置は誰にとって見やすいといいのかを明確にするとよい。ペアのいる場所を変えることでもっと声掛けができるのではないかな。早く走れて喜んでいるなど、ペース走の理解が不十分の生徒がいた。
- C班：ペア学習でやるのが明確でわかりやすかった。ピブスで色分けすることで課題が明確でよかった。体調管理のチェックも多くあり、安全面もよかった。ペース走の理解だけでなく、もっと落とし込んで行う方が良いのでは。全員が一周1分ではなく、それぞれのタイムでもいいのではないかな。フォームなどを動画で共有するのも視覚的アプローチになるのでは。

### 3 指導講評

- ・生徒との関係が良かったから今回のような授業が展開できたのではないかなと思う。
- ・教師が生徒を褒めている回数も多く、生徒の意欲向上につながっていた。
- ・掲示物は工夫がされていたが、小さかったのももう少し拡大した方がよかったのではないかな。あのサイズで掲示するならタブレットで共有してもよいのではないかな。
- ・ペア学習がテーマなのでもう少しその時間を確保するとよかった。より、深い学びへとつながる。
- ・ICTの活用としてグラフをつくることで生徒が視覚的に判断できていた。それにより、意識の向上につながっていた。ただ、グラフの目盛りが細かったため変化が見取りにくく、もう少し目盛りを大きくして変容をわかりやすくしてもいいのではないかな。
- ・体調管理の面でも教師が中心となり、ペア学習の中にも取り入れていて安全面も確保されていた。
- ・アンケートでは長距離走を嫌いとする生徒が多かったが、前向きな生徒が多く見られた。
- ・指導方法の工夫や、教師の行動がとても良く生徒に反映されていた。
- ・生徒が挑戦したいという気持ちを引き出すことができていた。
- ・指導案において、学習活動と学習内容の違いを教師がしっかりと把握する。生徒の実態を把握し、何が課題で、何を学ばせたいのかを明確にするとよい。
- ・マイナスに感じている生徒に対してどう積極的に受け取ってもらえるのかの工夫が大切。
- ・指導も一貫性のある指導が重要となる。
- ・生徒と教師が本時のまとめの場面を一緒に行うことで、生徒の理解の向上につながる。

## 第2分科会 「武道（柔道）」

### 1 授業について

- ・担当したクラスは未経験者がほとんどだった。柔道に対してあまり良いイメージではない生徒が多数いたが、積極的に行っていた。振り返りを見ても活発に取り組めている生徒が多く感じられる。動画の秒数が10秒と短かったため、伝え合いがうまくできなかった。動画はスロー再生を活用した方がよかったかもしれない。安全面を考慮して場所を指定すればよかった。

### 2 研究協議

『ペア学習を通して、運動への多様な関わり方を知り、体育好きを育てる授業実践』

『ICT 機器（タブレット端末等）の効果的な活用方法』

#### (1) 授業を参観して

- A 班：感覚づくり運動がスムーズで良かった。運動量も確保されていた。教師の声かけが良かった。スクリーンに指示が提示されていてわかりやすかった。活動している位置を工夫しても良いのではないかな。投げ技をひざ立ちでもいいから計画に入れた方がいいのではないかな。今後の ICT の活用方法として撮影した動画を切り取り、アドバイスを書き込んでもいいのでは。
- B 班：教師が明るいことで生徒のレスポンスもよかった。感覚づくりがよかった。プログラムタイマーのテンポもよかったが、もう少し状況によってゆっくりでもいいのではないかな。ゲーム形式の時に動画撮影を入れてもいいのではないかな。タップ（ギブアップ）を教えてもいいのではないかな。
- C 班：チェックカード（ICT、資料）がよかった。2人→3人組の学び合いが日々のスムーズな流れがみえてよかった。逃げ方や返し方を指導すると、より掛ける側と受ける側の活動が活発になるのではないかな。見学者への対応の工夫が必要。話し合い活動で ICT を活用して、男女共修の場面をつくってもいいのではないかな。
- D 班：感覚づくりが種類豊富でよかった。生徒の活発な様子もよかった。タイムマネジメントができていた。受け側の逃げ方を指導すると掛ける側の成長につながるのではないかな。ICT の活用としてパワーポイントをしようしてもいいのではないかな。

### 3 指導講評

- ・生徒とコミュニケーションがとれており、先生の日々の信頼関係の構築ができていると感じた。
- ・休み時間から授業の始まり（黙想）への流れがよかった。
- ・コンタクトスポーツのため、首のストレッチを入れていてよかった。競技の特性に合わせたストレッチを入れることが重要。
- ・本時の内容によって感覚運動で意識する場に教師がいる方がいいのではないかな。
- ・スクリーンに指示を映すことで、指示が出しやすく、行動にスピード感が出ていた。
- ・押さえこみが解かれる条件を教えて、更に攻防を活発にしていくとよい。
- ・プログラムタイマーをベースに途中で止めて話し合うなど、ゆっくり指導する時間があってもいいのではないかな。
- ・礼を毎回する形を定着させると更に柔道の競技性が出るのではないかな。
- ・3年間の見直しをもって単元の計画にあたることが重要。競技の特性や生徒の実態を把握する。
- ・指導と評価を一体化させる。子どもたちの学習改善と教師の指導改善。
- ・共生の視点をもつ。豊かなスポーツライフを実現するために、嫌いな子たちを普通または好きに変えていくために様々なしかけをしていく。
- ・男女共修を実施していく。競技の特性上できない場合、話し合いは一緒に行う等の工夫をする。

# 深谷市立川本中学校

## 単 元 名

- ・陸上競技（ハードル走）
- ・器械運動（跳び箱運動）

## 授 業 者

田 端 和 輝  
落 合 亜 依

## 研究協議会

- ・第1分科会 協議の柱
  - ① 本日の授業の振り返り
  - ② 陸上競技における効果的な ICT 機器の活用方法
- ・第2分科会 協議の柱
  - ① 本日の授業の振り返り
  - ② 器械運動における効果的な ICT 機器の活用方法

## 司 会 者

- ・第1分科会 津久井 大 貴（熊谷市立大原中学校）
- ・第2分科会 滝 沢 一 真（深谷市立上柴中学校）

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	新 井 知 章
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事	小 林 良
県立総合教育センター指導主事	笛 場 敦 司
深谷市教育委員会学校教育課指導主事	鳥 塚 源 太 郎



# 《活動の様子》



# 深谷市立川本中学校

単元名	陸上競技（ハードル走）	
指導者	田端和輝	
単元目標	(1) ハードル走の技術の名称や行い方を理解するとともに、リズムカルな走りから、滑らかにハードルを越すことができるようにする。【知識及び技能】 (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】 (3) ハードル走に積極的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることや、健康・安全に気を配ることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】	
本時の目標	○提供された練習方法から、自己の課題に応じて動きの習得に適した練習方法を選ぶことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】	
授業内容	1 用具の準備 2 集合・整列・挨拶・出席確認・健康観察 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 5 本時のねらいと内容の確認 6 自己の課題解決へ向けた練習	7 タイムトライアル 8 集合・健康観察 9 学習の振り返り・まとめ 10 次時の予告 11 挨拶・片付け

単元名	器械運動（跳び箱運動）	
指導者	落合重依	
単元目標	(1) 跳び箱運動の技の名称や行い方を理解するとともに、技をよりよく行うことができるようにする。【知識及び技能】 (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることや、健康・安全に気を配ることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】	
本時の目標	○提供された練習方法から、自己の課題に応じて動きの習得に適した練習方法を選ぶことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】	
授業内容	1 用具の準備 2 集合・整列・挨拶・出席確認・健康観察 3 準備運動、補強運動 4 感覚づくりの運動 5 本時のねらいと内容の確認 6 練習の行い方や選択の仕方の学習	7 ペア学習での課題解決練習 8 確認の演技 9 整理運動 10 学習の振り返りとまとめ 11 整列・健康観察・挨拶・片付け



# 第48回北部教育事務所管内（大里地区）中学校体育授業研究会

## 第1分科会 「陸上競技（ハードル走）」

- (1) 主体的に学び、運動好きを育てる体育授業の実践
- (2) 陸上競技における効果的な ICT 機器の活用方法

### 1 授業について

- ・暑い中でもよく動いてくれた。
- ・体育の授業は、30人以上が好きだが、半分以上はハードルが嫌い、怖いハードルから安心して跳べる授業を目指した。
- ・30mHのタイム→50mHのタイム→50m走のタイムに近づけるようにした。
- ・興味をそそるような教材を作成した。
- ・最後に転倒してしまう子がいたので、安全面をもう一度見直したい。
- ・課題学習の決め方は？  
→学習カードを見て足りない所を課題とした。
- ・普通のハードルを跳ぶ意欲はあるのか？  
→今はこのままでいきたい

### 2 研究協議

- ・安心安全な教具があり、意欲的に動いていた。
- ・授業の流れが良く、運動量が多かった。
- ・ハードルの高さを変えることができてよかったと思う。
- ・課題が見える化されているとよかった。
- ・実践練習にグループを持ってきてよかったのではないかな。
- ・生徒が散らばっていたので、アドバイスが通りづらいところもあった。

### 3 指導講評

- ・学習課題がしっかりと考えられている。
- ・教師のわかりやすい言葉での指導が良かった。
- ・掲示物がとてもわかりやすく良かった。
- ・教師の細やかなアドバイスが良かった。
- ・思考を促す言葉かけがあるとすごくいいと思う。「なんでだろう？」「どうしてだろう？」という言葉掛け
- ・生徒がねらいを達成するための手段の1つが ICT である。
- ・毎時間の動きが蓄積されるので伸びがわかる。
- ・ICTを撮る場所を考えるのも思考につながる。
- ・実践ゾーンにカメラをずっと置いとくのもいいと思う。
- ・研究主題がしっかりできている授業だった。
- ・体育の授業は、教科書がないからこそ、指導要領と必携、リーフレット、動画を確認すること。
- ・主体的な学習＝学習の見通し
- ・どんな力を身に付けさせたいかをすべての観点からしっかりと明確にする。
- ・できそう。楽しそうにつながるようにする
- ・教師の発問から生徒の振り返りをする。
- ・対話的な学びを大切にする。1時間目に健康安全面を必ず教える。
- ・単元をデザインすることが大切
- ・ICTの積極的な活用をする
- ・授業の最後の振り返りを行うことが大切である。最初と終わりの文章を可視化させる。
- ・運動好きのリーフレットから「いつ、何を、どのように」指導と評価の一体化
- ・思い切り汗をかく。事故防止。
- ・運動量を多く。
- ・自己の伸びを実感。
- ・動く、集う、わかる、伸びる楽しさを振り返らせる。

## 第2分科会 「器械運動（跳び箱運動）」

- (1) 主体的に学び、運動好きを育てる体育授業の実践
- (2) 器械運動における効果的な ICT 機器の活用方法

### 1 授業について

- ・技能の差はあったが、感覚作りの運動を何回も行い、できるようになってきた。
- ・できる生徒は、より高くより遠くに着地するようにさせた。
- ・今日は自分で練習方法を選択すると言うねらだったが、Bを選択した生徒ができるようになってきたため、Aに移動することができていた。
- ・動画を真横から撮影することができなかった。
- ・補助の行い方はどのように行っているか？  
→跳び箱の横に2名つけて行っていたが、できるようになってきたため、今日はなしで行った。

### 2 研究協議

- ・生徒が意欲的に楽しそうに活動していた。
- ・運動量がとても多かった。
- ・場の工夫が多くて良かった。
- ・全員が課題を持って取り組んでいた。
- ・感覚づくりの運動の精選をした方が良いのではないか。
- ・安全面で補助をつけた方が良い。
- ・タイムシフトカメラを使えば、自分の動きを自分で確認できる。

### 3 指導講評

- ・生徒との関係がとてもよかった。
- ・安心して授業に取り組んでいた。声かけ、笑顔や表情。
- ・安全面の確認。熱中症等。
- ・展開の時間に教え合いや、学び合いの時間をもう少し取れるとよかった。
- ・ICTの活用は「使うだけが目的」では良くない。
- ・自分の動きの確認、お手本との違いをチェックできるようにする。
- ・自分で学びたいものを確認することができる。
- ・振り返りの場で共有できると良い。
- ・生徒との人間関係がとても良い。安心感のある授業だった。
- ・評価の観点が3つになったということは、学ばせる内容も変わった。
- ・単元を通して、バランスよく計画していくことが大切。
- ・実態の把握、運動の特性を理解することが大事。
- ・どのようなゴールにするのかを生徒たちにも教える。
- ・教えたことを評価する。Cの生徒がBになるように。
- ・支援が必要な生徒をどのように指導していくか。
- ・教材の工夫等。個別の指導対応とICTの活用
- ・運動好きな生徒の育成をするために、埼玉県動画資料を作成した。

# 行田市立南河原中学校

単 元 名

・体づくり運動（体育館）

授 業 者

松 岡 俊 佑

岡 田 朱 実

研究主題

「ふるさと南河原を愛し、未来をたくましく生きる子供の育成」

～確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな身体をはぐくむ小中一貫の推進～

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

新 井 知 章

埼玉県教育局東部教育事務所主任指導主事

野見山 伸 一

行田市教育委員会学校教育課教育指導課指導主事兼主幹

姉 崎 亮 太

# 《活動の様子》



# 行田市立南河原中学校

単元名	体づくり運動
指導者	松岡俊佑(T1)・岡田朱実(T2)
単元目標	<p>○体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法を理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【知識及び運動】</p> <p>○自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を県所しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話し合いに参加しようとする、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	<p>○体力の程度を踏まえて、仲間とともに楽しむための運動を見つけ仲間に伝えることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【学びに向かう力、人間性等】</p>
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 あいさつ、健康観察</li> <li>3 脈拍の測定(15秒)</li> <li>4 準備運動</li> <li>5 3分間折り返し走</li> <li>6 ウォームアップ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームジャグリング</li> </ul> </li> <li>7 本時のねらいと内容の確認</li> <li>8 前時の復習</li> <li>9 運動の共有             <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題別に分かれて話し合い活動</li> <li>・グループに戻って課題別で考えた運動を伝える。</li> <li>・柔らかさを高める運動、力強い動きを高める運動、巧みな動きを高める運動の順番に伝える。</li> <li>・伝えながら短い時間・少ない回数で良いので一緒に運動を行う。</li> <li>・予想される生徒の動き</li> </ul> </li> <li>10 集合・片付け</li> <li>11 学習カードの記入・まとめ</li> <li>12 整理運動</li> <li>13 あいさつ</li> </ol>



## 第48回東部教育事務所管内（北埼玉地区）中学校体育授業研究会

### 1 授業について

- ・振り返りの時間がとれなかったため、時間配分を考える必要がある。
- ・16個の運動を共有するのを1時間でするのは難しかった。半分にして2時間にしてもよかった。
- ・新体力テストの結果から、持久力に課題を感じ、3分間の折り返し走を帯で取り入れた。
- ・初め緊張をしていた生徒たちも、ウォームアップで体ほぐしの運動（チームジャグリング）と取り入れたことにより、表情をほぐすことができた。
- ・狭いスペースで行っているところもあったため、安全面の配慮がもう少し必要だった。
- ・教え合い活動の中で ICT の活用も考えたが、生徒が自分の口や体を使って説明してほしいという思いから、今回は取り入れなかった。
- ・紹介した運動のメモをうまく取らせることができなかったことが、今後の課題である。

### 2 研究協議

- ICT 機器（タブレット端末等）の効果的な活用方法（1班）（4班）
  - ・新体力テストの結果を踏まえ、自分には何が必要なのかを調べ学習し、運動方法を自分で選択していく。
  - ・長距離走の授業でタブレットシートを使用することによって、ラップタイムやグラフが自動的に計算されることによってデータ化しやすかった。
  - ・器械運動の授業でタイムシフカメラを使用し、自分が演技している姿を見ることができてよかった。
  - ・カメラ機能を使った実践例が多くあがった。動きを客観視する時に使用している。
  - ・マット運動の授業で自分の技を映してチームスに提出させ、評価している。
  - ・球技の試合時に、上の方から動画撮影をして、生徒の振り返りに活用し、思考・判断を深めさせた。
  - ・学習カードをタブレットにしていきたい。
- 資質・能力をバランスよく指導するための学習活動（内容）の工夫（2班）（3班）
  - ・知識・技能では、授業初めのオリエンテーションで知識に関するプリントを配布し、説明をする。授業が進むごとに補足説明も加え、振り返りを行うことで、さらに知識が深まっていく。
  - ・思考・判断・表現では、学習カードの工夫をする。実生活、大人になった時でも行えるように、家でもできる・ある物を使って運動を考え、プリント内にまとめ、仲間に伝えていくことで深まっていく。
  - ・主体的に学習に取り組む態度では、ペア学習で教え合うことにより、主体性へとつながっていく。
  - ・単元の計画を授業前にしっかりと立てる。生徒の実態によっては、計画が前後してしまっても良いのではないかと。しかし、最終的にゴール地点（教えなくてはいけないこと）はぶれてはいけない。
  - ・本時の目標をピンポイントにしてしまうと、達成できない子が増えてしまう。立て方の工夫として狭めてしまう目標ではなく、できることを広めた目標でも良いのではないかと。
  - ・教員が引き出しを多く持つ。そのためにも、常に研究が必要である。

### 3 指導講評

- ・今回の指導案は県の体育必携に則った完成度の高い指導案になっている。体づくり運動では、知識及び運動だが、単元の評価規準は知識・技能の表記で良い。
- ・単元計画をしっかりとすると、①教師が学習内容を理解していること②子どもたちの実態を把握していること③教材・教具の工夫をしながら、バランスよく評価項目が入って計画されていることである。
- ・単元計画がしっかりとしていると、最終的には単元が終わった時にこうなってほしいという姿に生徒は近づけるのではないかと。また、教師がこうなってほしいという姿を生徒と共有することが大事である。そのために、最初のオリエンテーションの時にしっかりと確認（伝える）すること。
- ・3つの資質、能力をバランスよくつけるために、学習指導要領に書いてあることが最低目標となる。そこに到達できるように、教材・教具、ルールなどの工夫を行って、子どもたち満足感を与え、評価をしてほしい。最終的には豊かなスポーツライフに繋がると良い。
- ・年間計画は、季節で取り組んで変えてみたり、単元のつながりを考えてみたりして、見直していてもいい。
- ・豊かなスポーツライフの実現に向けて共生（男女共修、特別支援教育）を取り入れていかなければいけない。保健体育の授業はスポーツを通じて共生社会の実現に繋がる重要な学習の機会になる。
- ・本時の授業は、全ての子どもたち（特別支援学級の生徒も含め）が、授業に前向きに取り組め、関われるように、UDの視点を入れ、工夫されていた。→正面に大きく映していたプロジェクター等。
- ・協働的な学びの視点で授業が組まれていた。（情報のインプット→情報の再構成→情報の再構築→情報のアウトプット）子どもたちが思考した素晴らしい場面だった。
- ・生徒が運動を行う時間や回数を仲間に伝える時が本時は重なってしまった。これまで培った体育理論や保健、体育実技教科書を根拠にして、資料から読み取ったり考えたりしてスタンダードを作ってみると良い。そして自分で選択をしていくことによって、さらに運動の楽しさを味わうことができる。
- ・効果的な ICT の活用法
  - 体づくり運動では、実生活と結び合わせたいため、例えば運動の共有としてそれぞれの動きを動画に撮ってグループに持ちかえり、見せることもできる。また、三脚などでタブレットを固定し、グループの動きを常に撮影しておく方法もある。授業後も、動画をクラスルームなどにあげて、家庭でも見られるようにしてもよい。さらに、次時の授業の初めに確認で見たり、次年度の単元の導入の場面でもう1度見返したりすると効果的である。



→個人やグループの振り返りを、フォームスで集計して全体に表示し、全員で共有する。

→振り返りに使うことによって、評価に関連して残せるものとなる。デメリットとしては、1時間目からの変化を見られなくなってしまう。変更をさせたい場合はノートに書かせるなどして、うまく使い分けていく。

- ・今回の指導案は十分に熟議を重ねて、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業展開になっていた。
- ・学習指導要領にもう1度目を通して、書かれている内容をベースにして、生徒の実態と照らし合わせながら、単元計画や学習内容を決定していくことが大切。学ばせる内容が決まれば、指導と評価の一体化ができる。
- ・授業では、学習形態、教材・教具の工夫があり、子どもたちが進んで意欲的に取り組んでいた。教師の関わり方や言葉かけ等が子どもたちのやる気に繋がっていく。
- ・先生方の良い取り組み方を共有して、現場に持ちかえり、授業実践に活かして行ってほしい。

# 幸手市立幸手中学校

## 単 元 名

## 授 業 者

・球 技 (サッカー)

北 島 樹

・球 技 (バスケットボール)

長谷川 京 子

## 研究協議会

・第1分科会 [サッカーにおける見方・考え方を育成するための教材教具の工夫]

・第2分科会 [バスケットボールにおける見方・考え方を育成するための授業形態の工夫]

・第3分科会 [球技における見方・考え方を育成するための ICT 機器の効果的な活用方法]

## 司 会 者

・第1分科会 阿 部 浩 也 (春日部市立豊野中学校)

・第2分科会 田 中 幹 浩 (松伏町立松伏第二中学校)

・第3分科会 田 中 彰 人 (越谷市立大袋中学校)

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

新 井 知 章

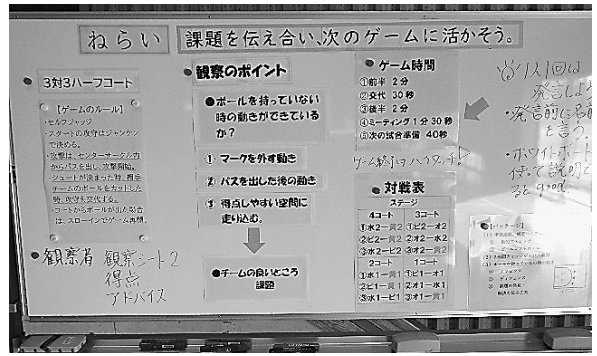
埼玉県教育局東部教育事務所主任指導主事

野見山 伸 一

幸手市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事

吉 田 崇 信

# 《活動の様子》



## 幸手市立幸手中学校

単元名	球技（サッカー）	
指導者	北島 樹	
単元目標	<p>(1) サッカーの特性や技能の名称などについて理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) サッカーの学習に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>	
本時の目標	○課題を伝え合い、次のゲームに活かそう。 【思考力、判断力、表現力】	
授業内容	<p>導入（15分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合、挨拶、出席確認、健康観察</li> <li>3 パッケージ</li> </ol> <p>展開（27分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4 本時のねらいと内容の確認</li> <li>5 3ラインゲーム</li> </ol>	<p>まとめ（8分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6 集合、整理運動、健康観察</li> <li>7 学習の振り返りとまとめ</li> <li>8 次時の予告</li> <li>9 挨拶、片づけ</li> </ol>

単元名	球技（バスケットボール）	
指導者	長谷川 京子	
単元目標	<p>(1) バスケットボールの特性や技能の名称などについて理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) バスケットボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>	
本時の目標	○課題を伝え合い、次のゲームに活かそう。 【思考力、判断力、表現力】	
授業内容	<p>導入（15分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合、挨拶、出席確認、健康観察</li> <li>3 パッケージ</li> </ol> <p>展開（027分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4 本時のねらいと内容の確認</li> <li>5 ゲーム（3対3）ハーフコート</li> </ol>	<p>まとめ（8分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6 集合、整理運動、健康観察</li> <li>7 学習の振り返りとまとめ</li> <li>8 次時の予告</li> <li>9 挨拶、片づけ</li> </ol>



# 第48回東部教育事務所管内（埼葛地区）中学校体育授業研究会

## 第1分科会

### 1 授業について

- ・生徒の気持ちがあがっている状態で授業ができた。
- ・空間を使う動きができるようになってきた。ボールを見ている生徒もいたが、走り込むことができていた。
- ・アドバイスが多かったのもう少し時間をとりたかった。個人の意見が多く、チームとして戦略を発表できていなかった。
- ・ICTで2対2をする予定でいたが、今回の授業の形に変えて行った。
- ・ICTを録音と評価のために活用した。

### 2 研究協議

- ・子どもたちは、「ゲームを楽しみたい」そのために、3年間を見通してどう動かしていくか。する・みる・知る・支えるが重要。（授業の工夫として）①ボールの工夫（新聞紙を丸めたもの、空気を抜いたもの、フットサルボール）、②コート工夫、横を広くしてサイドを使う、2ゴールにして使う、小さいコートで少人数で使う、③人数の工夫（1VS1のボールキープ、3VS2、キーパーなし）、④ICTの工夫（短い時間で伝えるためにアドバイスカード、ホワイトボード、タブレットで映像を撮影。）
- ・指導する時間が短いので生徒が主体的に活動している、教材が工夫されている。2ゴール&掲示ボードを活用し、ICTを使って意見の録音をする視点が面白い。
- ・コート人数の工夫、コートに番号を振って、「○番に走るよ」などの声がけをする。
- ・導入がパッケージになっていて生徒が動きやすい。ミーティング会議が活発だった。
- ・録音での評価は思考が読み取れる。試合では、サイドから蹴る、コートの区切りが必要だったと感じる。

### 3 指導講評

- ・生徒の実態のとらえ方が良く、指導案が素晴らしかった。
- ・感覚ではなくアンケートをとり、実態を把握している。
- ・グラウンド整備が行き届いており、安全面に配慮されている
- ・導入時のパッケージに基礎的なものが入っており、心と身体の準備ができていた。
- ・ゴールを多く設置するなど、場の工夫がされていた。
- ・役割分担が明確で、見え方、考え方がはっきりしていた。見ること、伝えることを意図的に取り組んでいて素晴らしかった。
- ・声を録音して使うことがおもしろい。言い終わらない生徒もおり、時間の配分が課題だった。

## 第2分科会

### 1 授業について

- ・1年生でバスケットボールを経験しており、ボール基本操作は単元の最初の方で行った。
- ・パッケージの内容も、初めの2時間はパスを中心に行ってから2メンに移行した。最初はリバウンドなしで行っていた。
- ・「空間をどう使うか」を課題としており、どこが空いているのかを知ってもらうために、単元の前半では、タブレットで動画を撮影し振り返りを行った。
- ・本時は、チームでの課題を録音してもらい、その内容を思考・判断・表現として評価する。わからない場合は、提出ボックスを参考にして意見を述べられるように対策していた。

### 2 研究協議

- ・パッケージがわかりやすく、指示しなくても必要な動きが身に付けられるのが良かった。
- ・心拍数や筋肉の使い方、技術面を高めるために、教師からの明確な声掛けがあるといい。
- ・話し合いをICTで録音することで、教師の見方も変わり、評価もしやすくなる。  
→チーム内でペアリングをして動きを見てあげると良いのではないかな。
- ・フリーマンを作ることで、空いているスペースに対しての攻撃ができるのではないかな。
- ・オフボールに着目するのであれば、メインゲームでのドリブルなしにするのも効果的。
- ・ICTで他のチームを撮影し比較することで、見方考え方が広がる可能性もある。
- ・ミーティング内容を録音し、話して表現するのが得意な子にも対応できるのが良い。
- ・チームの課題を話し合わせていたが、見るポイントを絞っても良いと思った。
- ・女子バスケの試合を見せ、空間の使い方などのイメージを持たせる。
- ・同じチーム同士で、試合  
→「見る」「教える」の方が具体的な指導ができる。
- ・伝え合いアプリの活用（スプレッドシート、ロイロノートなど）
- ・キーワードを提示して深める時間をゆっくりとる。





# さいたま市立常盤中学校

## 単 元 名

・球 技 (バレーボール)

## 授 業 者

櫻 井 栞

長谷川 百合矢

木 村 優 花

## 研究協議会

・第1分科会 [全ての生徒が夢中になれる授業づくりの工夫]

・第2分科会 [主体的・対話的で深い学びを実現させるための教材の工夫]

## 司 会 者

・第1分科会 田 熊 秀 行 (さいたま市立日進中学校)

・第2分科会 神 代 諒 輔 (さいたま市立柏陽中学校)

## 指導・助言者

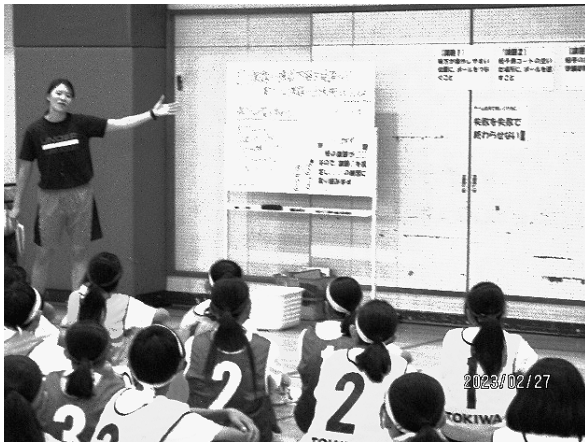
埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

新 井 知 章

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事

笛 田 透

# 《活動の様子》



## さいたま市立常盤中学校

単元名	「球技」(バレーボール)
指導者	さくら い しおり はせがわ ゆりあ きむら ゆうか 櫻井 葉・長谷川 百合矢・木村 優花
単元目標	<p>(1) バレーボールについて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) バレーボールの学習に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、仲間の学習を援助しようとする事などや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	○指示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題の出来栄を伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】
授業内容	<p>～ブリーフィング～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康観察、出席確認、用具の準備</li> <li>2 W-up</li> <li>3 集合・整列・挨拶</li> <li>4 前回の振り返り、本時のねらいと内容の確認</li> <li>5 ゲーム (5分×1試合)</li> <li>6 話し合い (3分)</li> <li>7 チーム練習 (5分×2)</li> <li>8 ゲーム (5分×2試合)</li> <li>9 振り返り (3分)</li> <li>10 集合・整理運動・健康観察</li> <li>11 学習の振り返り・まとめ</li> <li>12 次時の予告</li> <li>13 挨拶、片付け</li> </ol> <p>～ブリーフィング～</p>



# 第48回令和5年度さいたま市中学校体育授業研究会

\*

## 第1分科会 「全ての生徒が夢中になれる授業づくり」

### 1 授業について

- ・運動が苦手な生徒でもチャンス（可能性）がある授業ができるように心がけた。
- ・中1では、アタックプレルボール、中2では、ダブルセットバレー、中3では、正規のバレーボールというように、段階を踏まえた学習ができるようにした。また、男女共習での学習も取り入れた。
- ・単元の計画では、1～4時間目は練習（ラリーとレシーブ）と、発問を繰り返し投げかけ、5時間目からはチームごとに考える時間を設定し、8時間目以降は勝敗にこだわらずリーグ戦を展開することで、これまでの練習を生かすことができるように授業を計画した。
- ・健康観察や出欠確認、W-upなど生徒の主体性をはぐくむ工夫を導入時に行うようにした。

### 2 研究協議

- ・全員がボールに触れる工夫があったことで楽しさが生まれていた。ただ、ポジションが決まっていたのでローテーションがあっても良かった。
- ・授業の雰囲気が高く、普段の子どもたち同士の良い関係性が見えた。
- ・運動量が多い反面、安全に配慮する必要があった。（隣のコートからボールを取りに来る生徒がいた。）
- ・映像を見る（ICTを活用する）ことで、課題をグループで話し合い、共有する時間を確保していた。
- ・先生方の前向きで肯定的な声かけがすばらしかった。
- ・単元における系統性が明確であり、3年間の見通しがはっきりしていた。

### 3 指導講評

- ・肯定的な声かけが多かった。夢中になれる第一歩となっていた。
- ・生徒が主体的に活動する部活動のように、積極的な練習や、準備運動でのかけ足など、授業規律が優れていた。
- ・教えたい内容が指導できるレベルになっていた。
- ・楽しい活動もケガをすると嫌になる側面もあることから、安全面の配慮については、常に確認すること。
- ・いつ、どこで何をするかを明確にすることで、指導と評価の一体化が図られていた。
- ・教師が学習指導要領の例示を読み、内容を理解した上で、各校の実態を踏まえた単元計画を作成すること。
- ・単元計画を作成する上で、最後に子どもたちがどんな姿になっているか生徒と教員で共有すること。
- ・男女共習は、豊かなスポーツライフにおいて大切であり、学習指導要領にもあるように（男女は個性）先生、生徒でルールや場の設定を考えていたり、学校全体で取り組んでいたりすること。
- ・小中連携の際には、小学校の学習指導要領の内容や授業の実態について把握しておく。

## 第2分科会 「主体的・対話的で深い学びを実現させるための教材の工夫」

### 1 授業について

- ・「バレーボールで教えなければならないこととは？」それは仲間と関わり合うこと、役割行動の大切さを知ること。  
→ 社会と共有できる価値
- ・ダブルセットバレー  
→ バレーボールの緩和（生徒の手が届きそうな課題を設定）
- ・3学年どの種目も男女共習としている。
- ・「可能性があるから挑戦できる」授業づくりを目指している。
- ・意図的なセットを経由した攻撃や、連携したプレーを大切に展開した。
- ・第3触球者（セッター）にミスが出やすいので、つかんでも良いことにすることで積極性が生まれると考えた。
- ・Teams に試合をアップし、生徒たちが見ることができるようにすることで、いつでも課題を確認できるようにした。

### 2 研究協議

- ・話し合い活動で主体的・対話的な活動が見られた。
- ・一人ひとりの知識・技能を定着させるための言語活動が充実していた。
- ・チームティーチングが効果的であり、グループごとの課題把握がスムーズに行っていた。
- ・映像資料を用いる話し合い活動を単元計画に位置付けることで、課題発見から解決までのプロセスが明確であった。
- ・苦手な子どもたちに合わせることは大切だが、できる子（打てる子）にとってはコートが狭かったかもしれない。
- ・「振り返り」は、座って行うものだけでなく、「動き」を取り入れると生徒たちが課題解決へのイメージをしやすいのではないか。

### 3 指導講評

- ・教材の工夫について
  - ①良い教材・教具が、子どもたちの積極的な学習参加につながる。
  - ②「わかる」「できる」を近づけ、そして「かかわる」ことで成果を保証する授業であった。
  - ③教材の工夫によって、生徒一人ひとりに達成可能な技能を効果的に提供できていた。
  - ④ゲーム条件の緩和は重要な要素であるが、定着させるためには、ルールを変えすぎたり、複雑にしたりしない。
- ・思考について
  - ①教師が答えを言わず、ヒントとして子どもの思考を促す場面が多くあった。  
→ ヒントを与えるから生徒がアウトプット（自力解決・協働解決）でき、探求的な学びとなる。
  - ②教師の単元を貫くゴールイメージのもと、単元計画がしっかりと作成できていた。
- ・男女共習
  - ①運動有能感について、女子に低下傾向が見られるが、男女共習を取り入れることで維持できるというデータがある。  
男子は身体的認知（自己身体の気づき）が向上するというデータがあるため、単元に関わらず積極的に男女共習を実施すること。



## 編集にあたり

先ず以て、授業を提供していただきました各学校の校長先生をはじめとする先生方、懇切丁寧な御指導をいただきました県教育局県立学校部保健体育課及びさいたま市教育委員会学校教育部指導1課並びに各教育事務所、県立総合教育センター、関係の各市町村教育委員会の先生方に心より感謝申し上げます。

今年度で第48回になります中学校体育授業研究会は、県内10校全てで開催することができました。公開された授業については、各地区の研究常任委員が全ての学習指導案及び学習資料を保管しております。また、県中学校体育連盟事務局HPにもそれらの資料等が閲覧できるよう保管しておりますので、是非御活用ください。

実施した地区の指導案については、県中体連ホームページに掲載しておりますので、この「第48回中学校体育授業研究会」のまとめとともに十分に御活用いただき、本県中学校体育の課題である「運動好きな児童・生徒の育成」の推進にさらに努めていただきたいと思います。

保健体育科の指導は「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことを目指し、心と体をより一体としてとらえ、体育と保健を一層関連させて指導することが重要であります。今後も学習指導要領の趣旨を踏まえながら、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」について相互に関連させ、生徒のさらなる意欲向上のために研究を進めていただき、本誌がその一助としていただけたら幸いです。

----- 問い合わせ先 -----

### 埼玉県中学校体育連盟 事務局

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-5-1

埼玉県県民健康センター内

T E L 048-822-8876

F A X 048-822-0281

E-mail [sai-chuutairen.go-go@leaf.ocn.ne.jp](mailto:sai-chuutairen.go-go@leaf.ocn.ne.jp)



